

今月のテーマ

くすりの副作用について

くすりを飲むと副作用が出ることがあります。副作用が現れないように、現れても悪影響を最小限にとどめるために、副作用に対する正しい知識を持ちましょう。

くすりの副作用とは？

くすりを飲んだ時に、期待するくすりの効果(主作用)以外に現れた作用を「副作用」と言います。「副作用」には予測できるもの(下記①など)と、注意すれば避けられるもの(下記②～④など)があります。なかには飲んでみなければわからないものもありますが、できる限りの対策をしておきましょう。



副作用はどうして起こるの？

- ① くすりが本来持っている別の作用によるもの(風邪薬による眠気など)**
 効果のメリットと副作用のデメリットのバランスを見ながら使われます。どのような症状が出やすいかは予測できるものが多いので、飲むのがつらい症状がでるようなら早めに申し出て下さい。
- ② くすりの作用が強く出すぎて起こるもの(糖尿病薬による低血糖など)**
 くすりの量が多い場合や、他のくすりや食品との相互作用、腎臓や肝臓の機能低下が原因で作用が強く出ることがあります。併用薬や検査結果は医師・薬剤師に必ず伝えるようにしましょう。
- ③ アレルギー性のもの(抗生物質による発疹やショック症状など)**
 アレルギーには個人差があるので予測は難しいですが、卵アレルギー、牛乳アレルギーなどの体質、過去の副作用歴は医師・薬剤師に必ず伝えるようにしましょう。
- ④ くすりの飲み間違いによるもの**
 医師に指示されたくすりの飲み方を守ることで副作用のリスクは低下します。飲み方を間違えないようにしましょう。



副作用を悪化させないためには？

副作用を悪化させないためには「早く発見すること」が大切です。

副作用には「自覚症状から発見できるもの」と「検査値から発見できるもの」があります。自覚症状は本人にしかわかりません。そのため、くすりを飲んでいて「なにか普段と違う、変だな」と感じたら、医師又は薬剤師に相談しましょう。

医師は定期的に血液検査などを行い、副作用が現れていないかを確認しています。

薬剤師も血液検査の結果をみたり、患者さんから聞く話の内容から、効果や副作用の確認をします。医師と薬剤師がダブルチェックすることでより安全にくすりを服用することができます。血液検査の結果をもらった時は、ぜひ薬剤師にも見せて下さい。

くすりの副作用を起こりにくくするには？

① 決められた飲み方をきちんと守る

自己判断で飲み方を変えると、副作用を起こすことがあります。医師の指示に従いましょう。

② 他人のくすりを勝手に飲まない

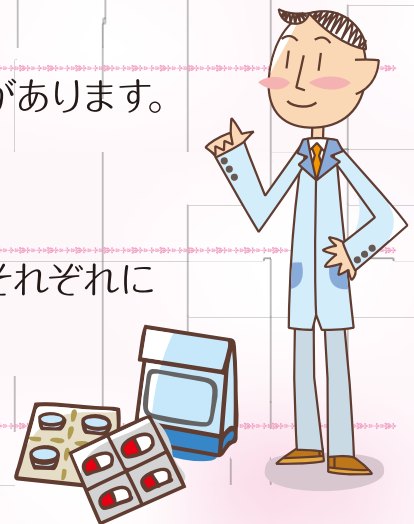
同じ症状であっても、医師から処方されたくすりはそれぞれに合わせたものなので、他の人が使うのは危険です。

③ 決められた検査をきちんと受ける

検査をしなければわからない副作用もあるため、医師の指示に従い、検査を受けましょう。

④ 自分の体質、副作用の経験、服用中のくすりのことを伝える

薬局では、患者さんから聞き取った体質、副作用の経験、併用薬などの情報を薬歴簿(電子薬歴)に記録して管理しています。副作用が出た時、新しく飲み始めたくすりがある時は、医師・薬剤師に必ず伝えるようにしましょう。



お薬や介護についてわからないことや、気がかりなことがありましたら、
お気軽にお尋ねください。

担当 みやこ薬局 大宮店

***** みやこ薬局 *****

本店・山科店・薬大前店・マツヤスーパー店・北山店・紫竹店・大宮店

<http://www.miyako-ph.co.jp>